

横浜市立 富士見台小学校 学校評価報告書 (令和元～3年度)

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①確かな学力の維持と向上をめざし、基礎基本の力の定着と共に、教材研究に引き続き協同して取り組み、児童一人ひとりを大切に授業の実践、及び少人数指導、教科担任制、のびのびルーム、国際教室を実施しながら、各教科でたがいの学び合いを進める。②思考力、判断力、表現力の育成と向上。③学習課題を主体的に解決する。	高学年教科担任制、のびのびルーム、国際教室など複数の教師が関わり、個々の学習を見取り支援する中で、児童は主体的に学力や学習を継続させる力が身に付いてきた。また、国語を中心に思考力、表現力の育成をめざし、他教科でも学びひきあひ姿が見られた。	B
豊かな心	①学級集団、学年集団の活動を基盤とした豊かな心の構築を図ると共に、他学年とのつながりやあるべき活動を集約、行事、読み聞かせ等で展開、充実させていく。②保護者や地域の方々の協力、支援をいただきながら、自分たちの地域をより意識した活動を展開していくことで、自他を認め、自己肯定感、自己有用感を高めていく。	一人ひとりの児童をしっかりと見取り、丁寧かつ計画的に学級経営、学年経営を行うとともに、運動会、フェスタなどの行事や日頃のべア活動の充実も図った。日々の授業や地域のかかわりを通して、自己肯定感や自己有用感を高めている。	B
健やかな体	①体育科の学習に加え、遊びや体力づくりを通して、体を動かすことの楽しさや高揚感を感じる機会を定期的に設ける。②食育や保健の学習をいっしょに行い、現在だけでなく、将来にわたって健康や運動に興味関心をもって取り組むことが出来る基盤づくりを継続していく。	体力づくりは「縄」に取り組み、児童に浸透してきた。長縄跳びでは記録更新を目指し取り組んだ。次年度は短縄跳びにも注力し、体を動かす楽しさを感じる機会を意図的に増やしていく。食育や保健の学習は栄養士や養護教諭と連携し、継続的に行っていく。	B
児童生徒指導	①学校生活は、社会生活であることを念頭に置き、児童への理解と共感、支援と指導に努めるために、常に情報共有や組織的対応、保護者との連携だけでなく、関係機関との連携を進めていく。②児童指導や児童理解、支援につながる研修をさまざまな場面や機会を通して行い、相談活動の充実をめざす。	児童理解のために学年等で情報共有を行った。昨年度と同様に関係機関との連携も進めている。今年度はSSWも交え、長期的に広範囲な連携にも努めた。また、外部研修で得た情報の共有も行った。学校カウンセラーによる相談活動も行われている。	A
特別支援教育	①児童一人ひとりの特性をとらえ、活かすために少人数指導、教科担任制、のびのびルーム、国際教室等を引き続き積極的に活用していく。さらに情報共有、環境整備を引き続き進め、適切な支援や教育をより良い形で進めていく。②特別支援教育の理解と周知、関係機関との連携も進めていく。	少人数指導、教科担任制、のびのびルーム、国際教室等を積極的に活用するとともに、専任・特別支援コーディネーター・関係職員で密に情報共有し、環境整備に努めた。また、関係機関との連携を積極的に進め、情報を校内で共有し、日々の授業を中心とした特別支援教育の理解にも努めた。	B
地域連携	①学校教育目標や中期取組目標の実現のために、地域や保護者と連携しながら、より良い教育活動を展開していく。②学校だけでなくHP、授業参観や懇談会、各種行事を通して情報発信を年間を通して行い、教育活動への理解と協力、支援をいただく。	多様な方法で情報発信し、教育活動への理解と協力を得ることができた。地域の方には防災教育活動やふれあい給食会などの行事に参加していただき、顔の見える関係づくりを進めることもできた。また、児童も地域を意識した活動が多く見られるようになった。	A
学校運営協議会	①年間4回の学校運営協議会の開催を中心に、教育活動に対するさまざまな視点による意見をいただき、学校経営に反映させていく。②協議会の場だけでなく、さまざまな機会や場面で支え、連携をより密にし、教職員だけでなく「地域」とも「地域と共にある学校づくり」を進めていく。	協議会で出た意見を「学校運営協議会だより」で保護者や地域に広く発信することで、適切な教育の実現を目指した。また、防災教育や地域学習、地域行事など学校と地域が協働して子どもを育てる取組も充実しており、「地域と共にある学校づくり」を進めることができた。	A
#REF!			
いじめへの対応	①年間を通して、相談活動やアンケートの実施を計画的に行い、児童一人ひとりの内面や心情的理解に努める。②そこで得られたことを学級担任だけでなく、組織対応に生かし、学校カウンセラー、関係機関との連携を行い、より良い対応に努める。③日頃から児童が自他を多角的多面的に捉えられるよう発達段階に合わせた学習場	いじめ基本防止方針を基に、いじめ防止対策委員会を定期的、また必要に応じて開いた。関係機関やカウンセラーと連携を図り、より良い対応ができるよう努めた。行事や学習では地域の方との交流を通して様々な思いに触れ、自他を多面的に捉えられるように努めた。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①年間を通して、相談活動やアンケートの実施を計画的に行い、児童一人ひとりの内面や心情的理解に努める。②そこで得られたことを学級担任だけでなく、組織対応に生かし、学校カウンセラー、関係機関との連携を行い、より良い対応に努める。③日頃から児童が自他を多角的多面的に捉えられるよう発達段階に合わせた学習場	新しい職員室レイアウトは、職員間のコミュニケーションを活性化させた。働きやすい職場づくりの要として機能している。また、職員室ベア活動によって、幅広いコミュニケーションがなされた。豊かになったコミュニケーションと人材育成をつなげていくような仕組みをどのようにしていくかが、今後の課題である。	A
ブロック内評価後の気づき	小中合同の研修会や授業参観を通して、児童生徒の現状と課題について相互理解を深めることができた。教職員間の連携も年々深まりつつある。また、年間を通して、運動会当日の中学生のボランティア活動、園工作品展における幼保小中の作品展示とその鑑賞、6年生の中学校訪問及び部活動見学、中学生の職業体験など、小中が連携する具体的な活動を多く取り入れた。その結果、継続的な交流が生まれ、児童生徒の相互理解も深まってきている。今後も「9年間育てたい子ども像」をより明確にし、共通の目標に向かって、児童生徒の健全育成に取り組んでいきたい。		
学校関係者評価	多くの学校関係者の方から、「富士見台小学校は、子どもを導きたい学校である。」との評価をいただいた。特に学校評価について分析し、問題点を見つけ改善策を工夫するなど、真摯な態度で取り組んでいることを評価してあげていただいた。また、学校行事への参加等地域の皆さまの協力と支援が学校運営を支えていること、それを教職員が意識し教育活動を展開し地域行事に参加したりしていることをあげ、地域との密接な連携が大きな柱になっている点を評価していただいた。		
中期取組目標振り返り	「たがいにひきあひ学校(学びあひ・認めあひ・生かしあひ)」という学校教育目標の実現を目指し、全教職員が1丸となって様々な教育活動を展開し、成果を上げることができた。特に子どもたちが暮らす地域や社会と広く関わり連携をとることの重要性を、教職員が理解し教育活動を行うことにより、児童の意識も高まってきている。学校関係者の評価にもあるように、地域と学校とのより良い連携の継続が学校経営の大きな柱になっており、その継続のためには、より具体的な取組を明確にしていく必要がある。また、重点取組分野としては、豊かな心、健やかな体にかき入れ、中期取組目標の実現に努めていく。		

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①児童一人ひとりの意見を大切に、主体的に学び合えるように導入や場の設定、学習形態等の工夫、振り返りの充実を図り、学びの楽しさを実感させたり、学年での協働的な教材研究、教材の共有化を図ったりする。②教科担任制、のびのびルームの活用を継続し、児童の実態に合った学びを構築する。		
豊かな心	①べア活動の充実を図り、自他を大切にすることをもちや自己有用感を育む。友達、教職員、保護者や地域の方々と自らあいさつするよきを実感し、日常生活で実践できるようにする。②自分たちの生活を支えている保護者や地域の方の思いを知り、自分たちも人の役に立つ喜びを味わえるようにする。		
健やかな体	①継続的な体力アップにつながる取組を実施し、体を動かす楽しさを実感できるようにする。短縄跳びを中心とした体力づくりを継続し、楽しみながら体を動かす機会を定期的に設ける。②食育、保健の学習のよき児童が理解し、生活に活かすことができるようにする。		
児童生徒指導	①普段の様子や計画的なアンケート、横浜プログラムの実施により、児童の実態を把握し、適切な指導を行う。②児童の問題を担任一人が抱え込まず、学年や学校全体で情報共有し、適切で迅速な対応をしていく。学校カウンセラー、関係諸機関との連携を密にし、より良い対応を行う。		
特別支援教育	①児童一人ひとりのよきを認め合い、普段の授業から自己肯定感を高めるような指導を継続する。②児童指導や児童理解、支援につながる研修を実施し、関係諸機関と連携を図り、保護者と共に担任、学年、児童指導専任、特別支援コーディネーター、管理職がチームとなって解決に向けて取り組む。		
地域連携	①地域や保護者と連携しながら、より良い教育活動を展開し、学校教育目標や中期取組目標の実現のために、魅力ある学校づくりを行う。②学校だけでなくHP、授業参観や懇談会、各種行事を通して情報発信を年間を通して行い、教育活動への理解と協力、支援をいただく。特に、HPの充実を図っていく。		
学校運営協議会	①各部署から選出、構成された学校運営協議会の開催を中心に、教育活動に対する多様な視点による意見をいただき、学校経営に柔軟に反映させていく。②「地域と共にある学校」をさらに実践するために、児童や教職員のみならず推進し、互いに顔の見える関係を構築し、かかわり合いを大切にす。		
#REF!			
いじめへの対応	①年間を通して、相談活動やアンケートの実施を計画的に行い、児童一人ひとりの内面や心情的理解に努める。いじめの未然防止、迅速な状況確認、対応を常に心がける。情報共有を行い、児童支援専任を中心とした組織的な対応、外部関係機関との連携を図る。②日頃から教職員の危機管理意識を向上させる。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①職員室レイアウトは、継続して働きやすい環境づくりを目指し、職員の考えや希望を取り入れながら進めていく。②人材育成については、全教職員が各々のキャリアステージをともに設定目標を明確にして取り組む。メンターチームには、先輩教師も助言者として参加し、授業向上、児童指導、教室環境整備や外部講師を招いての研修な		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知			
豊かな心			
健やかな体			
児童生徒指導			
特別支援教育			
地域連携			
学校運営協議会			
#REF!			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営(働き方改革)			
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	元年度		
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	157	<131	<121
豊かな心	150	<131	<121
健やかな体	124	<131	<121
児童生徒指導	138	<131	<121
特別支援教育	133	<131	<121
地域連携	113	<131	<121
学校運営協議会	133	<131	<121
#REF!	#REF!	<131	<121
いじめへの対応	157	<131	<121
人材育成・組織運営(働き方改革)	157	<151	<141
評価気付き	259		<271
学校関係者評価	226		<271
中期目標振り返り	281		<271

重点取組分野	2年度		
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	136	<131	<121
豊かな心	137	<131	<121
健やかな体	122	<131	<121
児童生徒指導	129	<131	<121
特別支援教育	135	<131	<121
地域連携	138	<131	<121
学校運営協議会	137	<131	<121
#REF!	2	<131	<121
いじめへの対応	139	<131	<121
人材育成・組織運営(働き方改革)	167	<151	<141
評価気付き			<271
学校関係者評価			<271
中期目標振り返り			<271

重点取組分野	3年度		
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	2	<131	<121
豊かな心	2	<131	<121
健やかな体	2	<131	<121
児童生徒指導	2	<131	<121
特別支援教育	2	<131	<121
地域連携	2	<131	<121
学校運営協議会	2	<131	<121
#REF!	2	<131	<121
いじめへの対応	2	<131	<121
人材育成・組織運営(働き方改革)	3	<151	<141
評価気付き			<271
学校関係者評価			<271
中期目標振り返り			<271